

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2022

29

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 2022年度



THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2022

29

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 2022年度

序 文

本年報は、熊本大学埋蔵文化財調査センターが2022（令和4）年度に実施した調査の概要を報告するものである。

2022年度は、黒髪北地区、黒髪南地区、宇留毛地区、本荘北地区、大江地区、新南部地区における15件の調査を実施した。その結果、多岐にわたる時代の遺構や遺物が発見され、熊本地域の歴史を知る上で重要な資料や情報が獲得された。特筆すべき具体的な成果は、以下の通りである。

基幹・環境整備工事が本格化した黒髪北地区では、古代、近代の遺物や遺構が検出された。古代の道路状遺構は、古代官道の推定ルート上に位置するため、駅路に関わる遺構と想定される。第五高等学校時代とみられる用水路跡や各種遺物も発見され、近代の大学史の理解に資することが期待される。黒髪南地区の工学研究機器センター、イノベーションプラザ（仮称）の改修工事区域でも、古代の遺物包含層が認められた。黒髪北・南両地区における調査の成果は、龍田山から白川に至る旧地形の復元および地史と人間活動史の関係を解明する上で重要な情報となろう。

宇留毛地区では、法面安全対策関連の工事が実施され、アンカー設置孔の穿孔時に発見された空洞内部に人骨の散布が認められた。本空洞は新発見の横穴墓であり、別の未発見遺構の存在を予想させる成果である。また、本荘北地区で近世・近代道路跡の西南部が残存している状況が確認されている。さらに、給排水設備等の設置工事が開始された大江北地区では、古代、近世の遺物包含層、近世溝、近代建物基礎等が検出された。弥生時代の土器が採集された新南部地区の立会においては、旧地形復元のための有益な情報として、地山の堆積が発見された。

一方、次年度に創設される情報融合学環および工学部半導体デバイス工学課程の研究棟新築工事に伴う埋蔵文化財の調査については、協議が進められている。熊本地震による震災関連業務は完了したものの、本センター各スタッフが担う埋蔵文化財の保護業務は、増加はしても減少することはないと思われる。調査体制の維持・充実について、関係各位のご理解とご協力をこの場を借りて改めてお願いする次第である。

2024年3月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター
センター長 新井 英 永

例言

1. 本書は熊本大学構内において、2022年4月1日から2023年3月末日まで行なわれた熊本大学埋蔵文化財調査センターによる埋蔵文化財の調査および活動内容に関する年次報告書である。
2. 本センターの調査番号は、西暦の下2桁と調査開始日時刻の番号（1桁の場合はゼロ埋め）の組み合わせによる4桁で表記し、出土遺物や記録類もこれに準じて整理・管理している。
3. 遺跡略号は、地区もしくは周知の埋蔵文化財包蔵地名に準じ、以下のようにローマ字で表記した。黒髪町遺跡群黒髪北地区（KKN）、同南地区（KKS）、宇留毛小碓橋際横穴群宇留毛地区（OZK）本庄遺跡本荘北地区（病院構内）（HJH）、同中地区（医学部構内）（HJM）、同南地区（医学部保健学科構内）（KHJ）、大江遺跡群薬学部構内（HJP）、京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS）、新南部遺跡群新南部地区（SNB）。
4. 遺物への注記は、遺跡略号+調査番号+出土遺構（位置）の順で行なった。
5. 本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している。
6. 黒髪南地区の基本土層は『熊本大学構内遺跡発掘調査報告14』、本荘地区の基本土層は『熊本大学構内遺跡発掘調査報告15』に準ずる。なお、黒髪南地区においては遺物を含まない褐色砂層（無遺物層）、本荘地区においては遺物を含まない褐色砂質土を地山と記載している。
7. 本書の執筆は、序文を新井、I章を新里、II章を大坪・土野・新里・山野、III章、付編および表を新里、英文サマリーを新里、ハンダグサマリーを大坪、抄録を新里が担当した。
8. 本書の編集は新里が行なった。

目次

<本文目次>

第1章 本年度調査の概要	1
第2章 調査の記録	5
Ⅱ-1 黒髪北地区	5
1. (黒髪北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 工事その1に伴う工事立会 (2201)	5
2. (黒髪北) 教育学部音楽棟改修機械設備工事に伴う工事立会 (2210)	15
3. (黒髪北) 教育学部音楽棟改修工事に伴う工事立会 (2211)	15
4. (黒髪北) 入出構ゲート更新工事に伴う工事立会 (2212)	16
Ⅱ-2 黒髪南地区	18
1. (黒髪南) 衝撃実験棟屋外給水管補修工事に伴う工事立会 (2204)	18
2. (黒髪南) 工学研究機器センター1階高性能材料試験室改修工事に伴う工事立会 (2208)	18
3. (黒髪南) イノベーションプラザ (仮称) 改修機械設備工事に伴う工事立会 (2209)	20
4. (黒髪南) 入出構ゲート更新工事に伴う工事立会 (2113)	21
Ⅱ-3 宇留毛地区	23
1. (宇留毛) 法面安全対策に伴う電柱撤去工事に伴う工事立会 (2202)	23
2. (宇留毛) 基幹・環境整備 (法面安全対策) 工事に伴う工事立会 (2203)	24
Ⅱ-4 本荘北地区	25
1. (医病) 熊本大学病院アメニティ施設増築工事 (基礎等) に伴う工事立会 (2215)	25
Ⅱ-5 大江地区	27
1. (大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) I期工事その1に伴う工事立会 (2205)	27
2. (大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) I期工事その2に伴う工事立会 (2206)	30
3. (大江北) 薬学部動物舎南側屋外給水管漏水修繕工事に伴う工事立会 (2207)	30
Ⅱ-6 新南部地区	31
1. (新南部) 作業用ビニールハウス設置工事に伴う工事立会 (2214)	31
第3章 活用事業およびその他の関連業務	
Ⅲ-1 構内遺跡の普及・啓発活動	32

1. 2201地点調査説明および遺跡見学	32
2. 火薬学会2022年度秋季研究発表会・見学会	32

Ⅲ-2 熊本大学キャンパスミュージアム構想関連事業への協力

1. 熊本大学キャンパスミュージアムシンポジウム「デジタル技術が切り開く地域文化財の未来」の開催	32
2. 熊本大学キャンパスミュージアム企画展示「見よ、クマダイ研究力！」への展示パネル提供	33
3. 熊本市所蔵文化財のX線CT撮影協力	33
4. 熊本大学キャンパスミュージアム基本構想(案)の策定業務	33

Summary

付篇1 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則	36
付篇2 2022年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織	38
付篇3 熊本大学埋蔵文化財調査センター2022年度調査・研究活動記録	39

<図版目次>

図1 熊本大学敷地 (アミ部分) 周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地 (1/25000)	2
図2 黒髪北地区西半における調査地点配置図 (1/2000)	6
図3 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)	7
図4 黒髪南地区における調査地点配置図 (1/2000)	19
図5 宇留毛地区における調査地点配置図 (1/2000)	23
図6 本荘北地区における調査地点配置図 (1/2000)	26
図7 大江地区における調査地点配置図 (1/2000)	27
図8 新南部地区における調査地点配置図 (1/2000)	31
図9 2201地点の遺跡見学の様子 (北より)	32
図10 火薬学会での発表資料	32
図11 シンポジウムのチラシ (表面)	32
図12 企画展会場の様子1	33
図13 企画展会場の様子2	33

図14	展示解説の様子	33
図15	X線CT撮影によって確認された銘文	33

<写真目次>

写真1	A 1区北側土師器出土状況(南より)	5
写真2	A 1区北側東壁土層断面(北西より)	8
写真3	A 1区南側東壁土層断面(南より)	8
写真4	A 1区南側掘削状況(北より)	8
写真5	B 6区北側掘削状況(南より)	8
写真6	B 3区南側褐色粘質土層検出状況(北より)	8
写真7	B 5区東側掘削状況(東より)	8
写真8	C 1区近代土坑遺物出土状況(東より)	9
写真9	C 1区近代土坑完掘状況(東より)	9
写真10	C 3区黒褐色土検出状況(東より)	9
写真11	C 3区東側黒褐色土遺物出土状況(西より)	9
写真12	C 3区西側遺構完掘状況(西より)	9
写真13	C 2区堅穴建物カマド南北土層断面(東より)	10
写真14	C 2区堅穴建物土師器出土状況(南より)	10
写真15	C 2区近世溝完掘状況(北より)	10
写真16	D 2区掘削状況(西より)	10
写真17	D 3区溝検出状況(西より)	10
写真18	D 3区中央溝南側土層断面(北東より)	10
写真19	E 2区中央古代遺構完掘状況(北より)	11
写真20	E 2区北端古代遺構完掘状況(北より)	11
写真21	E 2区北側縄文時代遺物出土状況(北より)	11
写真22	E 2区北端縄文土器出土状況(西より)	11
写真23	E 3区北側縄文土器出土状況(南より)	12
写真24	E 3区掘削状況(北より)	12
写真25	E 3区南端古代溝完掘状況(北西より)	12
写真26	E 3区近代用水路掘削状況(西より)	12
写真27	E 7区道路状遺構掘削状況(東より)	12
写真28	E 8区道路状遺構検出状況(南より)	12
写真29	E 8区道路状遺構硬化面検出状況(南より)	12
写真30	E 8区道路状遺構掘削状況(北より)	12
写真31	F 1区古代溝完掘状況(西より)	13
写真32	F 4区古代遺構完掘状況(西より)	13
写真33	F 5区近世道路状遺構硬化面検出状況(北より)	13
写真34	F 5区古代道路状遺構硬化面検出状況(南より)	13

写真35	F 5区波板状痕跡検出状況(南東より)	14
写真36	G 1区掘削状況(東より)	14
写真37	音楽棟南側中央部掘削完了状況(南より)	15
写真38	音楽棟北西側掘削完了状況(東より)	15
写真39	樹木2伐根完了状況(東より)	15
写真40	樹木3伐根完了状況(東より)	15
写真41	A 1地点作業風景(南より)	16
写真42	A 1地点北側配線部掘削状況(西より)	16
写真43	A 1地点南側配線部遺構面検出状況(西より)	16
写真44	A 1地点南側配線部北壁土層(溝状部)(南より)	16
写真45	A 1地点基礎部掘削状況(南より)	16
写真46	A 2地点作業風景(北より)	17
写真47	A 2地点北側配線部掘削状況(東より)	17
写真48	A 2地点南側配線部掘削状況(西より)	17
写真49	漏水管発見状況(北より)	18
写真50	包含層検出状況(北より)	20
写真51	包含層掘削状況(東より)	20
写真52	包含層完掘状況(西より)	20
写真53	包含層堆積状況(南東より)	20
写真54	既設樹撤去状況(南より)	20
写真55	包含層検出状況(西より)	20
写真56	B 1地点北側配線部作業風景(南より)	21
写真57	B 1地点北側配線部包含層検出状況(東より)	21
写真58	B 1地点北側配線部掘削状況(東より)	21
写真59	B 1地点北側配線部南壁土層(北西より)	21
写真60	B 1地点南側配線部作業風景(北東より)	21
写真61	B 1地点南側配線部掘削状況(西より)	22
写真62	B 2地点北側配線部作業風景(西より)	22
写真63	B 2地点北側配線部掘削(包含層検出)状況(北より)	22
写真64	B 2地点南側配線部作業風景(西より)	22
写真65	B 2地点南側配線部掘削状況(東より)	22
写真66	掘削作業風景(南東より)	23
写真67	支線新設箇所の掘削状況(南より)	23
写真68	掘削作業風景(西より)	24
写真69	アンカー設置箇所の掘削完了状況(南より)	24
写真70	空洞確認状況(西より)	24
写真71	空洞内で発見された人骨	24
写真72	近世・近代堆積層の確認状況1(北より)	25
写真73	近世・近代堆積層の確認状況2(西より)	25
写真74	近世・近代堆積層の確認状況3(西より)	25

写真75	近世・近代堆積層の確認状況4（北より）	—25
写真76	①i区近世溝検出状況（東より）	—28
写真77	⑤b区近代建物基礎工検出状況（東より）	—29
写真78	④a区北壁土層断面（南より）	—29
写真79	調査区近景（西より）	—30
写真80	漏水管修繕完了状況（南より）	—30
写真81	調査対象区近景（北西より）	—31
写真82	地山検出状況（北より）	—31

< 表目次 >

表1	熊本大学敷地と周知の埋蔵文化財包蔵地との対応 関係	—1
表2	2022年度調査一覧表	—3

第1章 本年度調査の概要

熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下、本センター）が実施した2022（令和4）年度調査の内訳は、発掘調査0件、工事立会15件（黒髪北・南地区、宇留毛地区、本荘北地区、大江地区、新南部地区）であった（表1・2）。前年度以前からの継続分は無く、ここで報告する調査の概要は、全て本年度から新規で実施された開発事業に関係したものである。

工事種別ごとの調査内訳は、給排水設備等の設置関係（2201・2205・2206調査地点）、安全対策関係（2202・2203調査地点）、建物の増築関係（2215）、建物の改修関係（2208・2209・2210・2211調査地点）、給・排水管の改修・修繕・取替・補修関係（2204・2207調査地点）、基本設備の設置・更新関係（2212・2213・2214調査地点）となり、以下に示す特筆的な調査成果が得られた。

黒髪北地区では基幹・環境整備工事が本格化し、これに伴う立会および発掘調査が実施された。調査の結果、

地区南西部の広範にわたるトレンチ状の調査区から縄文時代、古代、近代の遺物や遺構が検出された。縄文時代に関しては9802調査地点（現黒髪北サークル棟1）で確認されていた縄文時代早期末・後晩期における遺物包含層の堆積がその北・東側に拡大することが明らかとなった。古代の遺構としては竪穴建物跡、溝等があり、特にD3区とF5区で検出された道路状遺構は古代官道の推定ルート上に位置することから駅路に関わる遺構と想定された。第五高等学校時代とみられる用水路跡や各種遺物は、近代の大学史を知る上で貴重な資料である。

黒髪北・南地区の出入構ゲート更新工事では、両地区において古代の遺構や遺物包含層が確認され、黒髪南地区の南半に当たる工学研究機器センター、イノベーションラザ（仮称）の改修工事区域においても古代の遺物包含層が認められた。黒髪北・南両地区における調査の成果は、龍田山から白川に至る旧地形の復元および地史

表1 熊本大学敷地と周辺の埋蔵文化財包蔵地との対応関係（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No	団地・地区名（学部・施設名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種別	遺跡の時代	備考
1	黒髪北（文学部・法学部・教育学部等）	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	黒髪町遺跡群	集落址・墓地	縄文・弥生 奈良・平安 近世・近代	
2	黒髪南（理学部、工学部等）	熊本市中央区黒髪2丁目39-1				
3	宇留毛（学生寄宿舎、国際交流会館、職員宿舎）	熊本市中央区黒髪7丁目763	宇留毛神社周辺遺跡群 宇留毛小橋橋脚横穴群	散布地・城館跡・ 墓地	弥生・奈良 古墳・平安 中世	
4	本荘北（病院・医学部等）	熊本市中央区本荘1丁目1-1				
5	本荘中（発生医学研究所、ヒトレトロウイルス学共同研究センター、生命資源研究・支援センター等）	熊本市中央区本荘2丁目21	本庄遺跡（熊本病院敷地遺跡）	散布地・集落址・ 墓地	縄文・弥生 古墳・奈良 平安・中世 近世・近代	
6	本荘南（医学部保健学科等）	熊本市中央区九品寺4丁目24-1				周辺遺跡
7	大江北（薬学部等）	熊本市中央区大江本町5-1				周辺遺跡
8	大江南（薬学部グラウンド、職員宿舎等）	熊本市中央区大江本町5-1 熊本市中央区白山1丁目6-54		官衙址		
9	渡鹿（課外活動施設）	熊本市中央区渡鹿4丁目1-1				
10	渡鹿地区2（職員宿舎）	熊本市中央区渡鹿1丁目16		集落址		
11	京町（附属小、附属中学校、附属教育実践総合センター）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
12	城東町（附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城跡遺跡群	城館址・熊本城関連遺構	近世	
13	新屋敷1（職員宿舎）	熊本市中央区新屋敷1丁目9-11				
14	新屋敷2（職員宿舎）	熊本市中央区新屋敷2丁目15-3				
15	新南部（薬学部新南部農場）	熊本市東区新南部6丁目5-8	新南部遺跡群	散布地	縄文・弥生	
16	益城（熊本県生涯進機構地域共同ラボトリー）	上益城郡益城町田原2081-7	上面ノ平遺跡	散布地	縄文・中世	
17	上天草市松島町（くまもと水環境・減災研究教育センター合津マリンステーション）	上天草市松島町合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査で貝塚でないことが判明

※遺跡の種類、時代は近年の調査成果を反映させた。

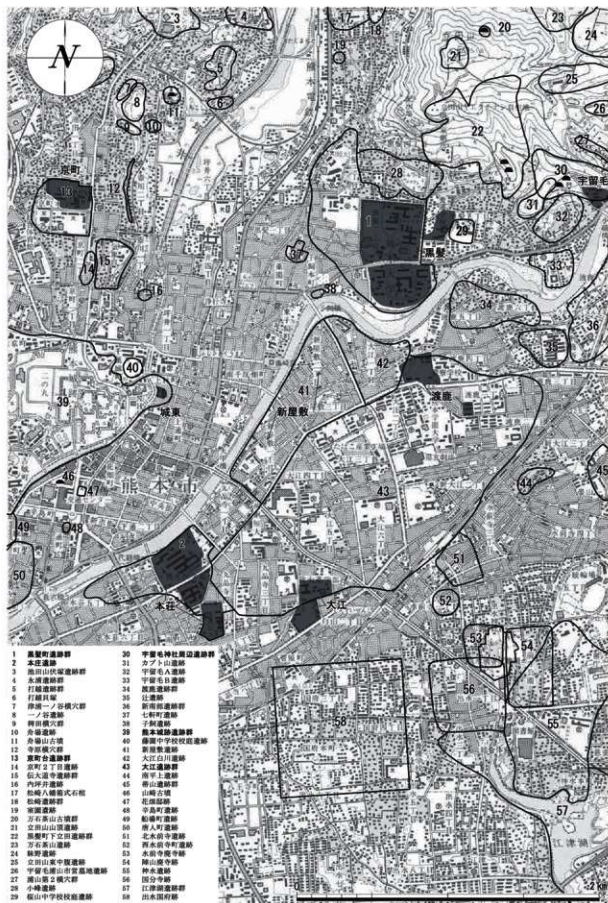


図1 熊本大学敷地（アミ部分）周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地（1/25000）

表2 2022年度調査一覧表

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積 (㎡)	時代	遺構・遺物
22・4.18～ 23・2.9	2201	(黒髪北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 工事その1	工事立会	1498.3	縄文・古代・ 近世・近代	堅穴建物・ピット・土坑・溝・道路伏道構 (波板状痕跡)、縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器・ガラス瓶・瓦・煉瓦・鉄製品・土製品・貝類
22・7.27～29	2202	(宇留毛) 法面安全対策に伴う電柱撤去工事	工事立会	6.0	なし	なし
22・8.1.9.9. 12.21.10.12	2203	(宇留毛) 基幹・環境整備 (法面安全対策) 工事	工事立会	3.5	古墳	横穴墓・人骨
22・9.12	2204	(黒髪南) 衝撃実験棟屋外給水管補修工事	工事立会	0.8	なし	なし
22・10.4～ 23・3.9	2205	(大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 1期工事その1	工事立会	2737	古代・近世・ 近代・現代	近世溝・近代建物基礎工 土師器・須恵器・布目 瓦・近世陶磁器・近代陶 磁器・ガラス・瓦・煉瓦
23・3.9	2206	(大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 1期工事その2	工事立会	209.0	現代	なし
22・10.10	2207	(大江北) 薬学部動物舎南側屋外給水管漏水修繕工事	工事立会	8.4	なし	なし
22・12.25～28	2208	(黒髪南) 工学研究機器センター1階高機能材料試験室改修工事	工事立会	49.1	古代・近世・ 近代	須恵器・土師器・陶磁 器・瓦
23・1.6～9	2209	(黒髪南) イノベーションプラザ (仮称) 改修機械設備工事	工事立会	101.2	古代	土師器
23・1.24～29	2210	(黒髪北) 教育学部音楽棟改修機械設備工事	工事立会	120.1	なし	なし
23・1.30	2211	(黒髪北) 教育学部音楽棟改修工事	工事立会	243.0	なし	なし
23・1.19.3.1	2212	(黒髪北) 入出構ゲート更新工事	工事立会	239.3	縄文・古代	縄文土器・土師器
23・1.19.3.1	2213	(黒髪南) 入出構ゲート更新工事	工事立会	239.3	古代・近代	土師器・須恵器・陶器
23・2.27	2214	(新南) 作業用ビニールハウス設置工事	工事立会	46.5	なし	なし
23・3.8	2215	熊本大学病院アメニティ施設増築工事 (基礎等)	工事立会	1740.4	近世・近代	道路跡

と人間活動史の関係を明らかにする上で重要な情報を提供するであろう。

宇留毛地区では、昨年度の災害復旧工事に続いて法面安全対策関連の工事が実施された。工事による掘削は小規模であったが、アンカー設置孔の穿孔時に空洞が発見され、その内部に人骨の散布が認められた。人骨の残存から空洞は新発見の横穴墓と判断され、地表面観察のみからは確認されていないその他未発見遺構の存在を予想させる成果が得られた。

本荘北地区では、1708調査にて検出された近世・近代道路跡の西南部が残存している状況が確認された。現地協議の結果、当該工事に伴う埋蔵文化財の調査を次年度以降も継続することとなった。

大江北地区の給排水設備等の設置工事も開始し、今年度は地区の北西側が工事の対象区となった。調査の結果、古代、近世の遺物包含層、近世溝、近代建物基礎等が検

出された。

弥生時代の土器が採集された新南部地区の立会では、包含層等の堆積は認められなかったものの、一部に地山が確認され、旧地形復元に資する情報が得られた。

今年度より開始された黒髪北地区と大江北地区の基幹・環境整備に関する工事は複数年度に渡って計画されており、また、建物の改築による立会の案件も増加傾向にある。加えて、次年度には情報融合学環および工学部半導体デバイス工学過程が創設される予定で、研究棟の新築工事に伴う埋蔵文化財の調査についても協議が進められている。熊本地震による震災関連業務は完了したものの、本センターが推進する埋蔵文化財の保護業務については減少することはないであろう。調査体制の維持とより一層の充実について関係各位からのご理解とご協力を今後も賜りたい。

第二章 調査の記録

II-1 黒髪北地区

1. (黒髪北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 工事その1に伴う工事立会 (2201)

<調査期間>

2022年4月18日～2023年2月9日

<調査面積>

1498.3㎡

<調査員>

山野ケン陽次郎, 新里亮人。

<調査概要・結果>

黒髪北地区の南西部, 南北約240m, 東西約210mの範囲について, 道路, 駐車場, 緑地帯において基幹・環境整備に伴う工事立会を実施した。

本工事の内容は側溝, 電線管, 給水管, ガス管, 排水管, マンホール, 仮設電柱などの設置と, 給水管撤去などである。このうち排水管和マンホールの設置箇所の施工深度は深く, 最も深い所では地表下2.4mまで掘削する必要があった。これらの新規設置位置について, 既設配管や既存の埋設物との位置関係により路線を変更する必要もあると想定されたため, マンホールなど変更が困難である箇所については事前に試掘トレンチを設けて支障配管・埋設物がないことを確認した。掘削箇所の多くが構内道路である点や調査範囲が広大であることから, 人や車両の動線の都合上, 全体を一括で調査することはできなかった。そのため調査地点をA～Gの7つの調査区に区分し, 各調査区に枝番号を付し, 掘削可能な範囲を随時調査した。掘削に際しては, 工事業者と常に連携を取りながら, アスファルト等剥ぎ取り, 重機による一次掘削, 埋蔵文化財調査という順序で進め, 基本的には調査区ごとに作業を行なったが, 工事計画上, 2ヶ所の調査区を同時進行で掘削・調査することもあった。

本調査地点周囲の過去の調査では1998年に黒髪北サークル棟1の建設に伴う発掘調査 (黒髪北9802調査地点) において, 縄文時代早期, 後期, 晩期, 弥生時代の遺物包含層と古代の溝などの遺構が確認されている。また, 本調査地点北側の黒髪北地区2107調査地点における工事立会では, 五高記念館南側において, 地表下0.5m程で古代の遺物包含層が確認されている。従前の調査成果を鑑みると, 遺構掘削を含む発掘調査の可能性が想定されたため, 工事立会の開始直後は11名の発掘作業員を雇

用し, 調査区ごとに土層, 遺構の記録等を実施した。

以下, 各区における概要と重要な遺構に関する所見について記述する。

【A区】

A区は本調査地点の最北に位置し, A1～3区の3つの調査区に分かれる。本区では給水管・ガス管と側溝の新設に係る掘削を実施した。現在は道路となっている南北約65mの範囲について幅1m, 地表下0.9～1mを掘削した。A1区の北側では地表下0.4～0.5m (標高21.2～21.3m) において近世・近代の遺物を含む暗褐色土層を検出した。また, 地表下0.7m程 (標高21.0m) で古代の遺物包含層らしき黒褐色土が検出されており, 少なくとも地表下0.9mまでこの土層が堆積していた。黒褐色土層からは局所的ではあるが古代の土師器や須臾器などの大型破片が出土している。調査範囲が狭小のため明確ではないが, 大型破片が出土する地点は遺構内埋土であった可能性も考えられる。一方でA1・3区の中央付近から南側では, 地表下0.9m (標高20.4m) でも近世陶磁器破片を含む暗褐色土層までしか到達しなかった。本調査区では古代の遺構面は検出できておらず, 南側に向けて旧地形が傾斜している可能性があり, 現地形が南側に向かってやや傾斜していることと整合的である。北側の一部を除いて, 後世の大きな削平や攪乱を受けている様子はなく, 後述するC区の遺構の残存状況も加味すると, 本調査区は古代の遺構が良好に残っている可能性がある点に今後也要注意したい。



写真1 A1区北側土師器出土状況 (南より)

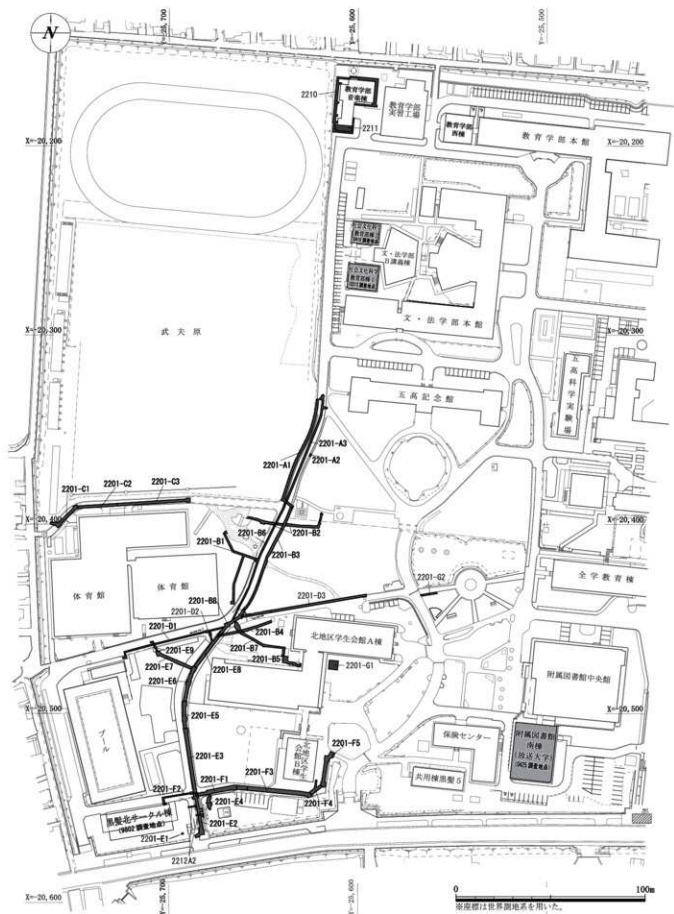


図2 黒髪北地区西半における調査地点配置図 (1/2000)

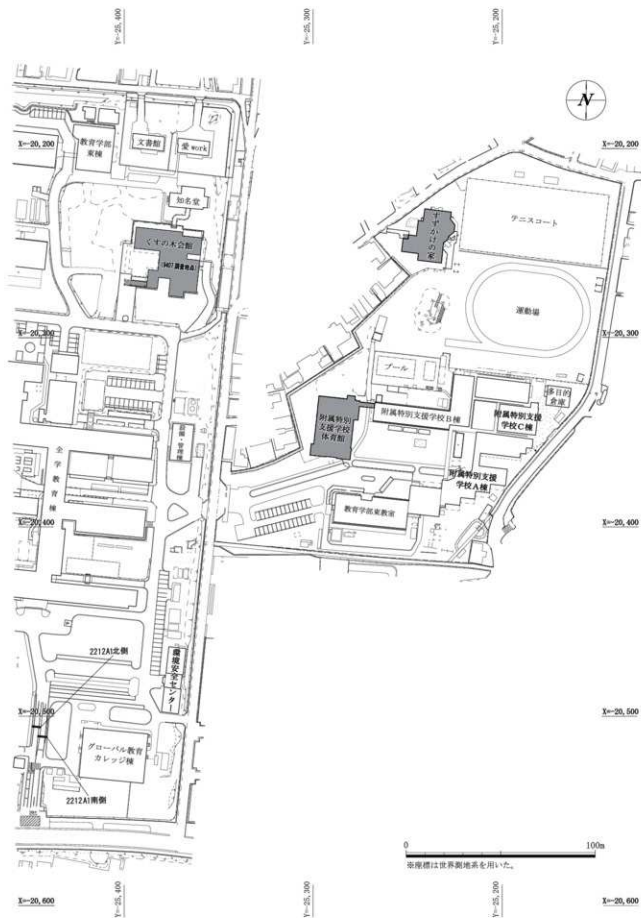


図3 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)

【B区】

B区は本調査地点の中央から北側に相当し、B1～8区の8つの調査区に分かれる。A区から続く南北方向の道路、緑地帯、学生会館の駐車場に位置し、給水管・ガスパ管、電線管、側溝、一部排水管の設置に係る掘削を実施した。本調査区のうちB3・6の北側またはB2区は、A1区南側とほぼ同様の堆積状況を示し、地表下0.9m（標高20.4m）で近世、近代の陶磁器を含む暗褐色土が確認できた。B3・6区は、やや傾斜の強い道路部分にあたり、その東西には現代の石垣が積まれており、この道路を敷設する際に旧地形を南北方向に大きく削平した



写真2 A1区北側東壁土層断面（北西より）



写真3 A1区南側東壁土層断面（南より）



写真4 A1区南側掘削状況（北より）

ものと見受けられる。そのためか、本区の南半では地表下0.7～0.9mまで現代盛土が堆積しており、地表下0.8～0.9m（標高18.9～19.0m）で円礫または亜円礫状の安山岩を含む褐色粘質土が検出されている。本土層は後述するE区の北側で古代の遺構検出面である暗褐色粘質土層よりもさらに下位で確認でき、遺物なども出土しないことから、いわゆる地山と考えられる。このような堆積状況から、旧地形も立田山から南側に向かって緩やかに傾斜していた状況が推定できる。B区では近世・近代と思われる暗褐色土層中から出土した陶磁器が、出土遺物の大半を占める。また、運動場トイレ北側の緑地帯にあ



写真5 B6区北側掘削状況（南より）



写真6 B3区南側褐色粘質土層検出状況（北より）



写真7 B5区東側掘削状況（東より）

るB2区の調査では、近代の廃棄土坑から出土したビール瓶などのガラス製品、陶磁器などを取り上げている。このほか、北地区学生会館A棟の駐車場にあたるB5・7区では既設配管や共同溝などの構造物が多く、地表下0.8~1.3mでも現代埋土が検出されており、掘削の多くが現代の掘方埋土内におさまった。

【C区】

C区は本調査地点の北西側に位置し、現在の道路部分にあたり、C1~3区の3つの調査区に分かれる。東西約75mの範囲に幅約1.4mの排水管用のトレンチと、これに連結するマンホール用の2.2~2.5m四方のトレンチを3ヶ所の屈折地点に設け、掘削を行なった。C区西端に相当するC1区の西側では、直径3.5m、深さ1.2m程の近代の廃棄土坑が検出され、埋土中からは陶磁器、瓦、ガラス製品、食糧残滓である貝類などが豊富に出土した。遺物の内容からこれらの一部は第五高等学校期の資料の可能性が考えられる。またC区は今回調査した各調査区の中で古代の遺物包含層と遺構の残存状況が最も良好であった。C2区では地表下約0.6m（標高20.3m）で古代の遺物包含層である黒褐色土を検出し、その上面では近世の溝やピットを複数検出することができた。地表下0.7~0.8m（標高20.1~20.2m）では古代の遺構面である暗褐色土層を検出している。遺構としてC1~3区で古代の竪穴建物か計3基、古代の溝が数条、そのほかピットや土坑が複数検出された。竪穴建物のうち2基には竈が検出されたが、いずれも残存状況は悪く、意図的に破壊して廃棄したものとみられる。古代の遺物包含層や遺構埋土中からは土師器や須恵器が出土した。



写真8 C1区近代土坑遺物出土状況 (東より)



写真9 C1区近代土坑完掘状況 (東より)



写真10 C3区黒褐色土検出状況 (東より)



写真11 C3区東側黒褐色土遺物出土状況 (西より)



写真12 C3区西側遺構完掘状況 (西より)



写真13 C2区堅穴建物カマド南北土層断面（東より）

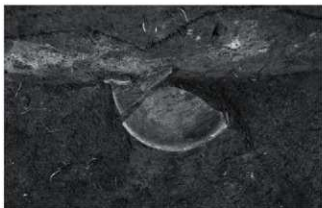


写真14 C2区堅穴建物土師器出土状況（南より）



写真15 C2区近世溝完掘状況（北より）



写真16 D2区掘削状況（西より）



写真17 D3区溝検出状況（西より）



写真18 D3区中央溝南側土層断面（北東より）

【D区】

D区は調査地点の中央に位置し、D1～3の3つの調査区に分かれる。現在の体育館南側および北地区学生会館A棟北側に走る東西方向の道路部分にあたり、給水管・ガス管の新設を目的とし、東西方向約133m、幅約0.75～1.25mについて調査を実施した。D区の西側にあたるD1・2区では一部攪乱による削平を受けているものの、調査区のおほとんどでB区南半において検出した安山岩混じりの褐色粘質土層が地表下0.75m（標高18.2m）で検出できた。本層上面で遺構が全く検出できないこと

から、古代の遺構面も含めて削平された状況と推定される。D1・2区の現地表面は北側の体育館から1m程下がっており、この東西方向の道路が近代の段階で大きく削平を受けていることが分かる。東側にあたるD3区の中央部分を除く東側と西側では、D1・2区と同様の堆積状況を確認できた。一方、中央部分にあたる約15mの範囲では、地表下0.4m（標高18.9m）でしまりの強いブロック状の暗褐色土層が検出され、この上面を掘りこむようにして南北方向の溝やピットが複数検出された。調査範囲が狭い上に土が乾燥しており、明確に分離するこ

とが困難ではあったが、少なくとも約11.6mの幅において南北方向の溝と思われる2条の遺構の切合いを確認することができた。施工深度に達していたが、土層と深さの確認のため南側を半裁したところ、遺構面からの深さは西側の溝が0.6～0.7m、東側の溝が少なくとも1mあることが判明した。埋土内の遺物は少なく、土師器の小破片であるため年代決定の判断が難しいが、本区は古代官道の推定ライン上に位置することから、道に関連する遺構であった可能性が想定でき、今後の周辺の調査の際には注意が必要である。この溝の土層断面を確認したところ、地表下0.7m（標高18.5m）で安山岩混じりの褐色粘質土層が確認でき、基本的にはD1・2区と同じ堆積状況を示すとみられる。本地区周辺の旧地形の復元を考える上でも重要なデータとなった。

【E区】

E区は調査地点の南半分に位置し、E1～9の9つの調査区に分かれる。黒髪北地区西側ゲートから、北地区学生会館A棟北西の十字路にかけての道路部分に相当する。直線距離で約110mの範囲に幅約1.8mのトレンチを設け、屈折部や岐路の計7ヶ所に2.5m×2.5mのマンホール設置箇所を設ける。E区北側ではD区の排水管と連結するために東側へカーブするトレンチと、これとは別に西側に向かいD1区と連結するトレンチに分かれている。

E区では、第五高等学校時代の石垣を伴う水路の一部が検出されたほか、古代の溝やピット、縄文時代の遺物包含層などが確認された。E区は現地表面が北から南に向かって緩やかに下がっていることもあり、現地表面からの古代の遺構検出レベルは南北で大きく異なる。E2区では北側で地表下0.4m（標高17.6m）、南側では地表下0.8m（標高17.5m）で遺構検出面である暗褐色土層を検出した。両地点の標高はいずれも17.5～17.6mであることから、この周囲の旧地形は大きく傾斜しているわけではないようである。一方、E2区北端からE3区にかけてはE2区南側で古代の遺構検出面としていた土層が地表下1.7m（標高16.8m）で検出された。E2区北端からE3区、E5区にかけては、この暗褐色土層上面において遺構を検出することができず、その上位に堆積する古代の包含層らしき黒褐色土からも遺物をほぼ得ることが出来なかった。遺構面のさらに下位には、しまりの強いマンガン層が検出されており、水成作用によるものと見られる。より北に位置するE6区では標高18.4mで古代の遺構が検出でき、南側と比べて検出レベルが1m以上高くなることから、E区中央部の一帯が少なくとも古代の段階では深く窪んでおり、水の溜まる沼地のよう



写真19 E2区中央古代遺構完掘状況（北より）



写真20 E2区北端古代遺構完掘状況（北より）



写真21 E2区北側縄文時代遺物出土状況（北より）



写真22 E2区北端縄文土器出土状況（西より）



写真23 E3区北側縄文土器出土状況（南より）



写真27 E7区道路状遺構掘削状況（東より）



写真24 E3区掘削状況（北より）



写真28 E8区道路状遺構検出状況（南より）



写真25 E3区南端古代溝完掘削状況（北西より）



写真29 E8区道路状遺構硬化面検出状況（南より）



写真26 E3区近代用水路掘削状況（西より）



写真30 E8区道路状遺構掘削状況（北より）

な地形になっていた可能性が考えられる。

E 6区北端、E 7区南東、E 8区南端では、東西方向の幅約5.3m、深さ1m以上、東で約17度北に振れる東西方向の溝が走っていた。埋土中の遺物は土師器片が主であり、近世以降の遺物は含まれない。埋土中に硬化面も検出できたことから、古代あるいは中世の切通しの道であった可能性があり、注目すべき遺構である。このほかE区からはピットや土坑などが複数検出されており、遺構の多くは遺物から古代の時期とみられる。

E 2・3区では縄文時代の遺物として縄文時代早期の押型文土器、縄文時代後期から晩期の土器が出土した。縄文時代早期の遺物は少量ながらE 2の南端、地表下0.5m（標高約17.6m）で出土した。1998年には黒髪北サークル棟1の建設時に発掘調査を実施しており（黒髪北地区9802調査地点）、その際に従来は地山と想定していた黄褐色のシルト質層に縄文時代早期の押型文土器と石器が出土している。本調査地が遺跡の東端に当たる可能性もあるものの同一の遺物包含層から出土したかは不明である。また、E 2区北側およびE 3区では、マンガン層より下位の暗褐色粘質土層や褐色粘質土層から縄文時代後期・晩期の土器が一定量出土している。1998年の調査でも当該時期の土器が出土しており、縄文時代の遺跡範囲が北あるいは東に広がる点が確認できた点は重要である。

【F区】

F区は調査地点の南東に位置し、F 1～5区の5つの調査区に分かれる。黒髪北サークル棟の北東側から北地区学生会館B棟の南側にかけての道路部分に相当する。給水管・ガス管・排水管の敷設に伴う工事で、途中の屈折部にはマンホール設置のための2.2～2.5m四方のトレンチを設置した。調査区全体の長さは約95m、幅0.7m～2.2mについて掘削を行なった。F区西側にあたるF 2区では施工深度が地表下0.8mであったが、いずれも現代の埋土内におさまっている。東側のF 1区からF 5区にかけては古代の遺構が散見された。F 1区では標高17.1mで東西方向に延びる約10mの古代の溝が検出されている。溝は西端で途切れており、北側に向かって屈曲するとみられることから、区画溝の可能性も考えられる。F区東端にあたるF 5区では標高18.5mで近世と思われる南北方向の溝が確認できた。溝埋土を掘り下げると底部で明瞭な硬化面を検出できたため、道として利用されたと推測できる。また、この近世の道と並行する古代の溝が西側に隣接して検出された。溝は幅約2.7m、検出面からの深さは約40cmで、主軸は北側で2度から3度西



写真31 F 1区古代溝完掘状況（西より）



写真32 F 4区古代遺構完掘状況（西より）



写真33 F 5区近世道路状遺構硬化面検出状況（北より）



写真34 F 5区古代道路状遺構硬化面検出状況（南より）



写真35 F5区波板状痕跡検出状況（南東より）

に振れる。溝の埋土下位には幅1.3m程の明瞭な硬化面を検出することができ、さらに硬化面の下からは一定間隔で並ぶ波板状痕跡を複数確認することができた。遺物も古代の土師器小片を中心としており、本遺構は古代の切通しの道である可能性が高い。本遺構はその位置と軸方向からも古代官道の推定ルート上の上のっており、本遺構が西海道の官道である可能性が非常に高いと思われる。このほか、F3区東側では地表下0.5m（標高18.5m）でビットが複数確認されており、調査区が狭いため復元はできなかったが掘立柱建物が建っていた可能性も捨てきれない。

【G区】

G区は北地区学生会館A棟の南東側と、サインカーブを挟んでさらに北東側の2ヶ所について、給水管撤去を目的とした掘削を実施した。いずれの調査地点も地表下1.0~1.1mまで既存管の掘方によって擾乱を受けており、遺構、遺物は見つかっていない。

本調査地点では、縄文時代、古代、近代の各時期において重要な成果が確認できた。黒髪北地区9802調査地点の発掘で、黒髪北地区南西端に縄文時代早期末と縄文時代後・晩期の遺物包含層が広がっていることは以前から明らかであった。今回の調査でその範囲がさらに北へ約35m、西へ約20m広がることが明らかとなった。縄文時代の明確な遺構は確認できなかったものの、縄文時代の集落範囲や行動範囲を考える上で有用であり、今後周辺の調査を実施する上でも重要なデータとなった。古代の大きな成果として、C区で竪穴建物や溝などの遺構が確認できたこと、E区で東西方向の道の可能性がある大溝が検出されたこと、F5区あるいはD3区で古代官道の推定ルート上に古代の道路状遺構が確認されたことが上げられる。黒髪北地区の南西部はこれまで大規模な発掘



写真36 G1区掘削状況（東より）

調査が少なく、古代の遺構の広がりや内容について十分な情報が得られていなかった。今回の調査によって本地区における古代の集落規模や構造や古代駅路に関連する考古学データを部分的にはあるもののが得ることができた。近代については第五高等学校時期と想定される用水路の跡や、廃棄土坑などから多くの遺物を発見することができた。近年、本センターの調査により、当該時期の遺構や遺物のデータも多く蓄積しつつある。今後、こうした資料について整理を進めることで文献や古地図だけでは得られない明治～昭和の生活史や学史を復元していくことに貢献できるだろう。

最後に今回の調査によって黒髪北地区南西部の広い範囲にトレンチを設けたことで、土層の堆積状況のデータを数多く得ることができた。調査地の旧地形を鑑みるに、基本的には北側の立田山方向から南の白川に向かって旧地形が下っていく様相が見て取れた。一方でE区中央付近は旧地形が大きく窪んでいることが判明し、マンガン層など水成由来の堆積層も確認できたことから、少なくとも古代以前にはこの一帯が沼地のような状況になっていた可能性が考えられる。また、黒髪南地区の基本土層に見受けられる縄文時代に堆積した自然堤防と考えられる褐色砂層や洪水堆積層などは黒髪北地区南西ではほぼ確認できず、立田山由来と考えられる安山岩を含む褐色粘質土がE6区以北で確認できるなど、白川右岸におけるダイナミックかつ複雑な土層の堆積状況を確認することができた。今後、これら土層のデータを過去の調査地点の状況と比較し、遺構の配置と照らし合わせることで、縄文時代から近代にかけての遺跡形成の概略を復元することができるだろう。

2. (黒髪北) 教育学部音楽棟改修機械設備工事に伴う工事立会 (2210)

<調査期間>

2023年1月24日～2023年2月9日

<調査面積>

120.1㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

教育学部音楽棟の改修工事のうち、建物外周に既設されている給排水管の撤去後、新たな給排水管を設置する地表下1.1m前後の掘削工事に立会した。掘削、既設管撤去、新設管埋設に至る一連の工事は、①音楽棟の南側中央部から南西隅、②同南側中央から反時計回りで北東隅まで、③同南西隅から北西隅まで、④同北東隅から北西隅間までの施工順で行なわれた。

①・②・③における掘削深度は全て現代埋土内におさまリ、遺構・遺物は検出されなかった。④の掘削では地表下0.7mにて近世・近代の遺物包含層が確認されたが、床掘高はそれ以下には達さないことを確認し、工事を許可した。



写真37 音楽棟南側中央掘削完了状況 (南より)



写真38 音楽棟北西側掘削完了状況 (東より)

3. (黒髪北) 教育学部音楽棟改修工事に伴う工事立会 (2211)

<調査期間>

2023年1月30日

<調査面積>

243.0㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

本調査は、教育学部音楽棟の改修工事のうち、建物南側に植樹されていた樹木の伐根作業に立会したものである。同改修機械設備工事の事前実施されるものであったが、工事の都合上、計画が変更されて実施されることとなった。

音楽棟西南側の樹木3本の伐根にあたって、地表化1.5mの掘削申請が提出されていたため立会を実施した。重機により幹回りの掘削が行なわれたが、全て低木で根が浅かったことから、地表下0.2m程度の掘削で伐根作業は完了した。

掘削深度は現代埋土内におさまリ、遺構・遺物は検出されなかったため、工事を許可した。



写真39 樹木2伐根完了状況 (東より)



写真40 樹木3伐根完了状況 (東より)

4. (黒髪北) 入出構ゲート更新工事に伴う工事立会 (2212)

<調査期間>

2023年1月19日, 3月1日

<調査面積>

239.3㎡

<調査員>

大坪志子,

<調査概要・結果>

熊本大学黒髪北地区への出入口2ヶ所に設置されているゲートの更新工事である。東側の全学教育棟前のゲートをA1地点、西側のプール前のゲートをA2地点とした。既設ゲートの操作盤が乗る基礎は、破砕して慎重に撤去し、基礎より深い電気配線部分とポール受けの立会を優先し、新設の基礎部は状況に応じて実施した。

A1地点では、道路を横断する電気配線のうち、まず北側の電気配線部を西側から、幅0.8mで掘削した。舗装を剥ぎ、下のバラスを除去すると遺物包含層を検出した。慎重に掘削すると地表下0.5mで遺構面を検出した。遺構と考えられる土壌の違いを確認したため、掘削範囲の中央を通っていた旧配線の掘方を利用することとし、これより東側は旧掘方の範囲のみを掘削して掘削予定範



写真41 A1地点作業風景 (南より)



写真42 A1地点北側配線部掘削状況 (西より)

圍のほとんどを保存した。

南側の電気配線部は、東側から掘削した。東端から西へ1.2mほどの範囲は、地表下0.7mまで遺物包含層で、これより西側は徐々に浅くなり、地表下0.4mで遺構面を検出した。東部の北壁を観察すると溝の立ち上がりのような黒色土の堆積状況を確認した。西側の遺構面では遺構の検出はなかった。

遺構面の検出深度が浅かったため、操作盤が乗る基礎部の掘削にも立会したが、全体としてバラスを撤去した深さで十分であることを確認した。

A2地点もA1地点同様に、電気配線部の掘削に際し



写真43 A1地点南側配線部遺構面検出状況 (西より)



写真44 A1地点南側配線部北壁土層 (溝状部) (南より)



写真45 A1地点基礎部掘削状況 (南より)

立会した。北側の電気配線部は、掘削予定の地表下0.65 mで遺物包含層を検出した。これ以上の掘削は行わなかった。東側では既設の電気配線が2本埋設されていた。縄文土器が1点出土した。2003年に調査を実施した0302 N調査地点で出土した縄文時代早期末葉の土器と同じ条痕があるものである。

南側の電気配線部では、水道管および電気配線用の蛇腹が検出された。この蛇腹は空だったため、これを再利用することにし、これ以上の掘削は行わなかった。

いずれの地点も、遺物包含層や遺構面および遺構を確認しており、今後も注意が必要であることを確認した。



写真46 A2地点作業風景（北より）



写真47 A2地点北側配線部掘削状況（東より）



写真48 A2地点南側配線部掘削状況（西より）

II-2 黒髪南地区

1. (黒髪南) 衝撃実験棟屋外給水管補修工事に伴う工事立会 (2204)

<調査期間>

2022年9月12日

<調査面積>

0.8㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

衝撃実験棟北側の屋外において漏水が確認されたとの連絡を受け、緊急で給水管の補修工事に伴う工事立会を実施した。

対象箇所は建物の北東隅に当たり、施工範囲(40cm×40cm)のコンクリートカットと鉄筋の撤去後、地表下0.2mほど充填された碎石および0.8mまでの給水管埋め戻し土の人力掘削が行なわれた。掘削の結果、水平埋設された配管がL字連結によって地中にさらに潜行する仕様であったことが確認され、その連結部において漏水が認められた。

給水管の取り換えのため、さらに0.2mの追加掘削が行なわれたが、堆積土は既設管の埋め戻し土であると判断された。破損管の撤去・修繕工事による埋蔵文化財への影響は無いと判断し、慎重な工事の施工を申し伝えて本立会を終了した。



写真49 漏水管発見状況 (北より)

2. (黒髪南) 工学研究機器センター1階高機能材料試験室改修工事に伴う工事立会 (2208)

<調査期間>

2022年12月25～28日

<調査面積>

49.1㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

工学研究機器センター1階高機能材料試験室にTEM(透過電子顕微鏡)基礎を埋設する工事に際し工事立会を実施した。当該工事では、床下に設置された地下ピット(地表下2.6m)の底面を1.3m掘削する計画であることから、建物の掘方下位における遺物包含層および遺構面の残存を確認することを調査の目的とした。

調査の結果、20センチ程度の転圧土の直下に近世・近代の遺物を含む包含層の堆積が確認できた。遺物の包含がまばらであったことから、重機により慎重に掘り下げ、遺物が含まれる暗褐色土層を全面に検出し、12月27日より人力による掘り下げを開始する。当該層には古代の遺物が含まれていたが数量は少ないため、遺物を一括で取り上げながら掘削を行ない、その下層より遺物が含まれる暗褐色土層を検出した。本層も遺物の出土が少なかったことから、出土遺物を一括で取り上げながら掘り下げを進め、その下層に褐色混砂土層を一部検出した。当該層の上面において、調査南側に溝状のプラン、調査区中央部西側に堅穴建物状のプランを確認したことから、検出状況の写真撮影を行なった。

12月28日、溝状プラン、堅穴建物状プランを掘り下げたところ、10cm程度で明褐色混砂土層が検出されたため、これらは遺構の埋土ではなく、白川に向かって傾斜する旧地形に堆積した包含層であると判断された。調査区西壁の土層断面を確認したところ褐色土および黒褐色土層が互層をなして堆積している状況が確認されたため、暗黒色土下位の堆積層は流水と関連したものと判断された。

完掘状況の写真撮影および調査区西側における土層の記録後、工事の床掘高まで人力による掘り下げを進めた結果、黒色砂層をほぼ全面に検出した。遺構、遺物は確認できなかったことから工事を許可し、調査を完了した。

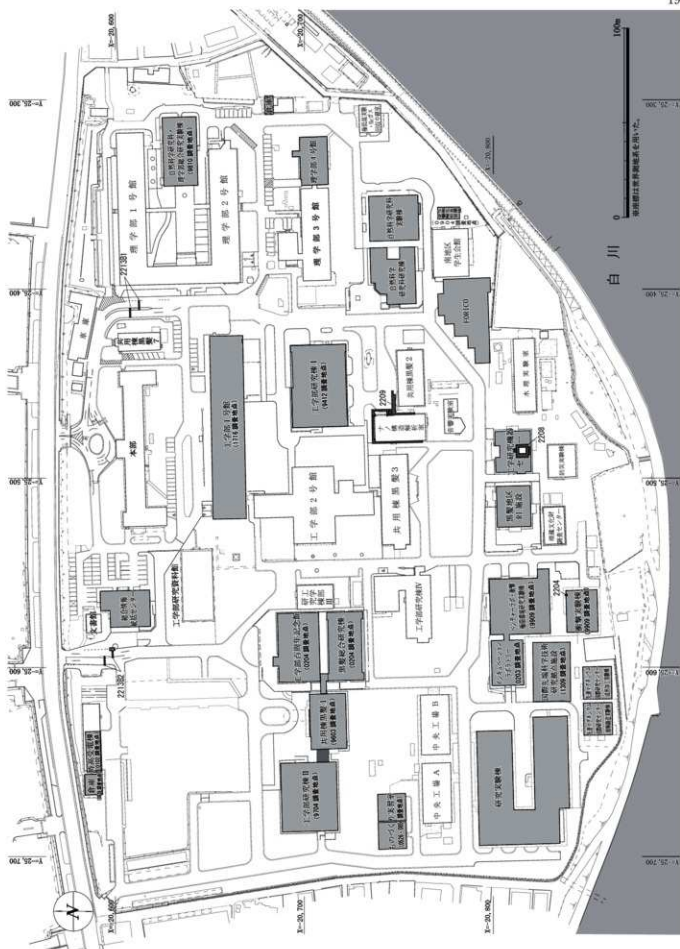


図4 黒髪南地区における調査地点配置図 (1/2000)



写真50 包含層検出状況（北より）



写真51 包含層掘削状況（東より）



写真52 包含層完掘状況（西より）



写真53 包含層堆積状況（南東より）

3. (黒髪南) イノベーションプラザ（仮称）改修機械設備工事に伴う工事立会（2209）

<調査期間>

2023年1月6～9日

<調査面積>

101.2㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

仮称イノベーションプラザの改修に伴う機械設備埋設工事に立会した。工区西側、北側、東側南半部は既設升と接続管の設置箇所、掘削深度は現代埋土内におさまった。工区西側の北半の新設管設置箇所は大きく削平を受けていたが、地表下1.0mにて遺物包含層とビットの一部が確認された。

本調査区の約100m北東側に位置する2208調査区の調査成果を踏まえると、本調査地点以南より旧地形が白川に向かって急激に低くなる状況が想定された。包含層とビット埋土の完掘後、平面図および西壁断面略測図を作成し、掘削状況の写真撮影後、工事を許可した。遺物は土師器片数点が出土した。



写真54 既設樹撤去状況（南より）



写真55 包含層検出状況（西より）

4. (黒髪南) 入出構ゲート更新工事に伴う工事立会 (2113)

<調査期間>

2023年1月19日, 3月1日

<調査面積>

239.3㎡

<調査員>

大坪志子

<調査概要・結果>

熊本大学黒髪南地区への出入口2カ所に設置されているゲートの更新工事である。東側の理学部前の出入ゲートをB1、西側の工学部側の出入ゲートをB2地点とした。2212調査地点と同様に、既設ゲートの操作盤が乗る基礎は破砕して慎重に撤去し、基礎より深い電気配線部分の立会を優先して立会を行ない、新設の基礎は状況に応じて立会した。

B1地点では、道路を横断する電気配線のうち、まず北側の電気配線部を掘削した。地表下0.35mで遺物包含層を検出した。慎重に地表下0.7mまで掘削した。土壌は、包含層の黒色から茶色に変わり、その下はさらに明るい茶色になった。遺構面には達していない。接合可能と考えられる土器が出土した。周辺での既往の調査成果や、

次に記述する南側の電気配線部の掘削における遺構面検出の深さから考えると、遺構内の可能性がある。

南側の電気配線部は、東端から1.2mの間で、地表下約0.5mで遺物包含層を検出し、0.7mまで掘削したがまだ遺物包含層内であった。西端から1.6mの間は、地表下0.4mで遺物包含層を検出、0.6mで遺構面を検出し、ビット1つを確認した。中央部は攪乱だった。

新設の基礎部分の掘削は、遺物包含層の検出が地表下0.35~0.5m程度と浅かったため念のために確認したが、予定地点はバラスの敷設が厚く、この中でおさまった。



写真58 B1地点北側配線部掘削状況 (東より)



写真56 B1地点北側配線部作業風景 (南より)



写真59 B1地点北側配線部南壁土層 (北西より)



写真57 B1地点北側配線部包含層検出状況 (東より)



写真60 B1地点南側配線部作業風景 (北東より)

B2地点では、まず北側の配線部を掘削した。西側約2.0mの部分に予想外の共同溝が通っていた。その東側0.7mの範囲は共同溝の掘方である。その東側も、予定する掘削深度までは、現代埋土であった。小さな土師器片・陶磁器片が出土した。

南側の電気配線部分では、舗装を剥ぎ、バラスを除去すると黒色の埋土で、地表下0.6m程度まで掘削すると遺物包含層を検出した。掘削はここまでとした。東端部は、銀杏の根による攪乱が顕著だった。

いずれの地点も、遺物包含層や造構面および造構を確認しており、今後も注意が必要であることを確認した。



写真61 B1地点南側配線部掘削状況（西より）



写真62 B2地点北側配線部作業風景（西より）



写真63 B2地点北側配線部掘削（包含層検出）状況（北より）



写真64 B2地点南側配線部作業風景（西より）



写真65 B2地点南側配線部掘削状況（東より）

Ⅱ-3 宇留毛地区

1. (宇留毛) 法面安全対策に伴う電柱撤去工事に伴う工事立会 (2202)

<調査期間>

2022年7月27日～29日

<調査面積>

6.0㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

法面安全対策工事に伴う電柱撤去工事に際し、埋蔵文化財の工事立会を行なった。工事対象区域が県道337号線沿いに位置するため、交通安全上の配慮から夜間に施工が実施された。既設支線埋設箇所の掘削と既設電柱の埋め戻し状況確認のための試掘。支線の撤去と電柱および支柱の抜柱作業の工程順で工事が進められた。

電柱支線の新設箇所（A：40cm×40cm）は地表化135cmまでの人力掘削が行われ、地表下40cmにおいて灰色凝灰岩の堆積が確認された。横穴墓掘削時におけるノミ痕の残存を確認するため、表土中より出土した凝灰岩塊3点をサンプルとして回収した。遺構、遺物等は検出されなかったため、工事を許可した。

既設電柱はクレーンによる引き抜き、法面に設置された支柱は地表面での切断によって抜柱・撤去がなされた。

いずれも順調に工事が完了し、遺構等への影響がなかったことを確認し、立会を終了した。



写真66 掘削作業風景（南東より）



写真67 支線新設箇所の掘削状況（南より）

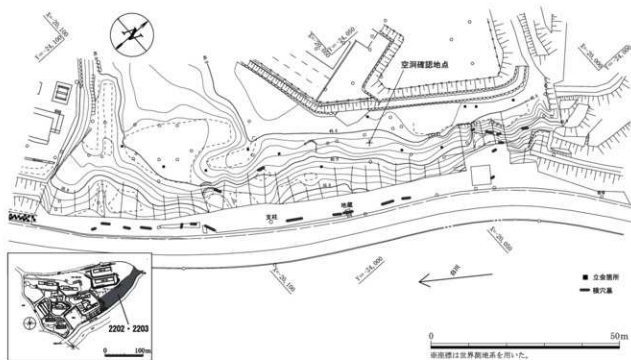


図5 宇留毛地区における調査地点配置図（1/2000）

2. (宇留毛) 基幹・環境整備 (法面安全対策) 工事に伴う工事立会 (2203)

<調査期間>

2022年8月1日, 9月9・12・21, 10月12日

<調査面積>

3.5㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

法面安全対策工事に伴う埋蔵文化財の工事立会を行った。工事対象区域が県道337号線沿いに位置するため、道路に接する工区に関しては交通安全上の配慮から夜間工事が実施された。

道路際の法面に堆積した腐葉土の鋤取りの立会を法面工事に先んじて実施したが、腐葉土はコンクリート施工面上に堆積しており、埋蔵文化財への影響はないと判断したため工事を許可した。

続いて、アンカーが設置される法面の工事掘削に立会したが、人力による小規模な掘削であることを確認したため全ての申請箇所の掘削を許可し、掘削完了後に工区内14箇所掘削坑(0.5m×0.5m)において完掘状況の写真撮影を行なった。深度は0.7mであり、全箇所において掘削深度が表土内におさまっていたことを確認して工事を許可した。

10月12日、アンカー設置箇所2-4の穿孔中、空洞が発見されたとの連絡を受け、現地にて空洞の現状確認を行なった。空洞からメジャーを差し込んで簡易的な計測を実施したところ、地表下2.8mが空洞の底面にあたり、十分な広さをもつ空間が想定できることから、空洞は横穴墓もしくは防空壕の一部である可能性が考慮された。空洞内にはアンカーの設置が不可能となることから、当該工事箇所は北側延長線上に設計変更されることとなった。穿孔部の埋め戻しについては工法を検討した上で再協議することとした。

10月31日、本学技術部より借用したファイバースコープにより内部を確認したところ、人骨(四肢骨)らしき骨が散乱している状況が映像により確認された。可視範囲が限られているため、内部構造やその他遺物の散布状況を知ることはできなかったが、人骨が確認されたことから空洞部は横穴墓に該当する可能性が高く、昨年度の分布調査では確認されなかった新発見の遺構と判断された。雨水や腐葉土の侵入を防ぐため、陶板で穿孔部を塞ぎ、掘土で埋め戻して応急的に処置したが、保存方法については今後検討を重ねることとした。



写真68 掘削作業風景 (西より)



写真69 アンカー設置箇所の掘削完了状況



写真70 空洞確認状況 (西より)



写真71 空洞内で発見された人骨

Ⅱ-4 本荘北地区

1. (医病) 熊本大学病院アメニティ施設増築工事 (基礎等)に伴う工事立会 (2215)

<調査期間>

2023年3月8日

<調査面積>

1740.4 (30.0) m²

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

熊本大学病院内のアメニティ施設増築工事に伴う工事のうち、旧外来臨床研究棟の解体後に残地された建物基礎の位置確認を目的とした掘削が工事に先んじて実施されることとなった。そのため、該当区域における埋蔵文化財の包蔵状態を確認することを目的として掘削工事の立会を行なった。

当該工区は1708調査におけるⅡ区にあたり、2017年度における調査の結果、地表下2.1mまでが総掘り工法によって削平されていることが明らかとなっていた。今回

のアメニティ施設の増築では地表下3.0mまでの掘削が申請されたため、工区西側を南北方向にトレンチ状に掘削し、地表下2.1m以下における遺構の残存状況を確認することとした。

調査の結果、掘削工区の北端から南に3.0m付近の地表下2.3m前後の地点にて、近世・近代の遺物を含む堆積層が確認された。掘削範囲を南側に拡張したところ、当該堆積層がさらに南側に広がる状況が確認できた。該当箇所は1708調査において検出された64号道路の西側に当たり、本遺構が地山である黄褐色砂層を深く掘り込んで形成されていた状況から、近世・近代の堆積層は1708調査64号道路の未発掘部である可能性が非常に高いと判断された。

現地にて病院施設管理室担当者と開発事業者側に調査の結果を申し伝え、一旦調査区を埋め戻して立会を終了した。後日、工区内における埋蔵文化財の残存状況について再度説明し、その取り扱いについて協議を行なった結果、工事の事前に記録保存を目的とした埋蔵文化財の緊急発掘調査を実施することで調整し、次年度以降も調査を継続することとなった。



写真72 近世・近代堆積層の確認状況1 (北より)



写真73 近世・近代堆積層の確認状況2 (西より)



写真74 近世・近代堆積層の確認状況3 (西より)



写真75 近世・近代堆積層の確認状況4 (北より)

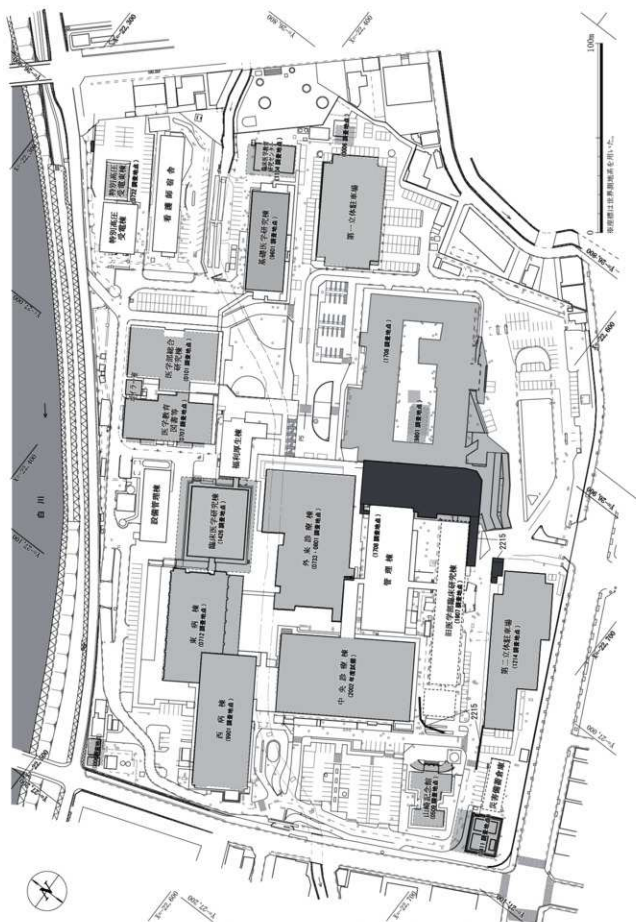


図6 本荘北地区における調査地点配置図 (1/2000)

Ⅱ-5 大江地区

1. (大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) Ⅰ 期工事その1に伴う工事立会 (2205)

<調査期間>

2022年10月4日～2023年3月9日

<調査面積>

273.7 (330.81) m²

<調査員>

土野雄貴

<調査概要・結果>

大江北地区の北西部で実施された、給排水設備等更新に伴うⅠ期工事立会の成果について挙げる。

①は雨水排水管新設箇所である。各小区のうちa～eは浸透槽、f～hは雨水排水管、iは雨水排水管および給水管敷設箇所を指す。

①aは2.2×2.2mを掘削し、地表下0.66mで近世、同0.94mで古代の各遺物包含層、同1.3mで地山を検出した。近世および古代の各層はそれぞれ2層に分かれ、近世下

層以下には酸化鉄およびマンガンの発色がみられる。この特徴は、以下各小区を通して確認された。地山は、以後特記ない限り褐色砂層を指す。

現代の排水槽を2基検出した。一つはモルタル煉瓦製で陶管が接続しており、もう一つは凝灰岩製の底石だけが残り、配管は撤去されていた。

①bは2.2×2.1mを掘削した。地表下0.67mで近世、同0.92mで古代の各遺物包含層、同1.23mで地山を検出している。調査区中央から既設配管の撤去痕跡を検出した。

①cは2.2×2.2mを掘削したが、北辺中央から南西隅にかけて地表下0.7mで鉄製給水管の分岐を検出し、これを回避するため東側を0.8m拡張した。地表下0.7mで近世、同0.95mで古代の各遺物包含層、同1.24mで地山を検出した。南端に①a既検出の続きとみられる陶管を検出している。

①dは2.2×2.3mを掘削した。地表下0.7mで近世、同0.94mで古代の各遺物包含層、同1.2m～1.28mで地山を検出した。南西隅にモルタル煉瓦製槽、南端に陶管を検出した。いずれも①a既検出の続きとみられる。

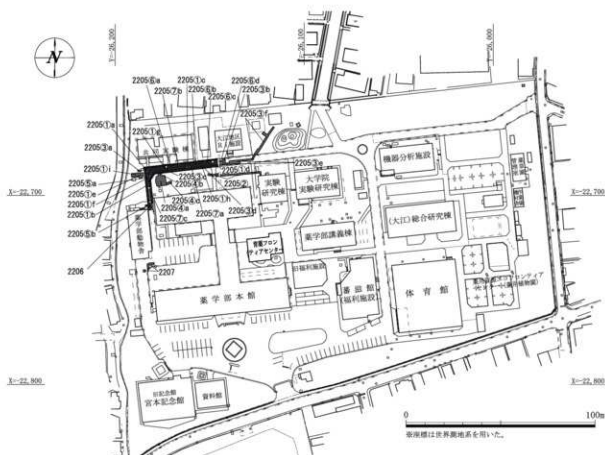


図7 大江地区における調査地点配置図 (1/2000)



写真76 ①i区近世溝検出状況（東より）

①eは2.2×2.1mを掘削したが、調査区北辺および西辺に検出した鉄製給水管を避けるため、南側を1.6×0.6m拡張した。地表下0.7mで近世、同0.93mで古代の各遺物包含層、同1.34mで地山を検出した。遺構の検出はなかった。

①fは、①a-①b間の0.9×4.9mを地表下1.07m掘削した。同0.7mで近世、同0.97mで古代の各遺物包含層を検出し、同層におさまった。

①gは、①a-①c間を0.9×18.7m掘削し、地表下0.7mで近世、同0.94mで古代の各遺物包含層、同1.34mで地山を検出した。①a既検出の続きとみられる陶管およびモルタル煉瓦製排水弁を検出している。

①hは、①c-①d間に位置するが、掘削深度が後述する③d・⑥bと同一であることから、1.3~2.2m幅を長さ12.7m、地表下0.85m掘削した。地表下0.7mで近世遺物包含層を検出し、同層におさまる。

①iは、学外へ出る雨水排水管と、学外から引き込まれる給水管を通すため、1.4~2.1m幅を4.1m、地表下0.96m掘削した。層序は①eに準じる。近世の溝1を検出した。

②は給水管新設箇所である。C1とW1とをつなぐ共同溝の東側0.9×2.2mを地表下0.85m掘削し、近代埋土におさまった。給水管は共同溝を貫通させる予定であったが、両天下の栗石層を通すことになり、共同溝の脇1.5m幅を同1.3mまで掘削した。同0.86mで近世、同1.08mで古代の各遺物包含層、同1.24mで地山を検出している。共同溝の西脇は1.6×1.2mを同1.3m掘削し、層序は前述深掘り部に準じる。共同溝をはさむように近代土坑2を検出した。

そこからC1へ至る区間は、北辺にそろえて0.9×4.7mを同0.85m掘削し、近代埋土におさまる。以西の掘削は、近代埋土におさまることを確認したので慎重に工事を進めることとした。

③はガス管および給水管敷設箇所である。各小区のうち、a・bは①区工事に先立つ迂回路仮設に伴う掘削箇所、c・dおよびeの一部はガス管および給水管併設箇所、eの大半およびfは給水管敷設箇所を指す。

③aは1.2×1.1mを掘削し、地表下0.88mで近世、同0.97mで古代の各遺物包含層を検出した。近世および古代の各層は2層に分かれ、近世下層以下には酸化鉄およびマンガンの発色がみられる。ガス管は同0.89mで検出され、作業空間を確保するため同1.07mまで掘削した。掘削は古代におさまる。

③bは1.0×2.4mを掘削した。中央付近から地表下0.6mで電力ケーブル、同0.7mで近世、同0.9mで古代の各遺物包含層、ガス管頂を同1.06mで検出した後、ガス管掘方を掘り上げた。掘方壁面から、同1.16mで黄褐色粘質土、同1.27mで褐色砂層、同1.34mで黒色強粘質土を検出した。近世は2層にわかれ、近世下層以下には酸化鉄およびマンガンの発色がみられる。その後、作業空間確保のため調査区南側0.9m幅を同0.9mまで掘り下げ、古代遺物包含層におさまった。

③cは、①gの南脇を0.9~1.6m幅、地表下0.85m掘削した。層序は①gに準じ、近世遺物包含層におさまる。

③dは、①hの南側に相当し、①hに準じる。

③eは、共同溝東端から雨水排水両面までの4.8mは0.9m幅、排水函の東側5.7mは2.0m幅を掘削した。排水函の脇1.0mは給水管下越しのため地表下1.1m、残りは北辺から0.9m幅を同0.85m、それ以外の箇所は同0.7mをそれぞれ掘削し、その東側は北辺に揃えて0.9×7.0mを地表下0.85m掘削した。排水両函の深掘り箇所では同0.7mで近世、同0.98mで古代の各遺物包含層を検出し、古代におさまる。近世は2層に分かれ、近世下層以下には酸化鉄およびマンガンの発色がみられた。残りの区間は近世におさまるが、後述する③fに近い東端2mほどは近代埋土におさまった。

③fは、③e東端から既設のL型側溝を下越してポンプ室1へ至る22.7m区間である。ポンプ室の手前5.1mに受水槽へ向かう2.4×1.5mの分岐がある。L型側溝までは幅0.9m、側溝の北3.5m付近までは幅1.3~1.5m、残りの区間は1.0m幅を、いずれも地表下0.85m掘削した。ポンプ室の手前4mほどは現代埋土、それ以外の箇所は近代埋土におさまる遺構は検出されなかった。

④は、実験排水管路に追加される沈殿槽設置箇所である。沈殿槽本体設置箇所であるa、沈殿槽から既設汚水管へ合流するb、排水の引き込み箇所であるcに細分した。

④aは5.6×5.2mを掘削した。地表下0.7mで近世、同

0.93mで古代の各遺物包含層、同1.33mで地山を検出した。近世および古代の各層はそれぞれ2層にわかれ、近世以下の各層に酸化鉄およびマンガンの発色がみられる。遺物の検出はなかった。

④ b は1.3×2.0mを地表下1.1m掘削した。北端に小枿を敷設し、後述する浸透側溝の底を経て東にある既設汚水排水管へ接続する。層序は④ a に準じ、掘削は古代遺物包含層におさまる。

④ c は、既設排水樹北脇に新設される排水樹設置箇所を1.7×1.7m、引き込み配管敷設箇所は樹の西側1.2×1.2mを、それぞれ地表下1.5m掘削した。層序は④ a に準じるが、遺存状況は良好でなかった。遺構は検出されていない。

⑤ は給水管およびガス管更新箇所である。西側構内道路のうち、W2前からW1に至るまでの区間を対象とし、① b を境に a・b と細分した。

⑤ a は9.4mを掘削した。① a 西脇は0.5m、① b 西脇は0.4m、ほかは1.1m幅である。地表下0.85mを掘削し、① a 脇は現代埋土。他の層序は① b・① f に準じる。

⑤ b は、0.8~1.2m幅を12.3m掘削した。南端近くに、既設給水管との切り替えのため0.6×1.2mを掘削した分岐がある。① b の南2.3m地点から近代建物基礎工を検出した。当時の建物配置図との比較から、熊本薬学専門学校の特別教室北壁に相当するとみられる。この基礎工付近では地表下0.7mで近世遺物包含層を確認できたが、それ以外の遺存状況は良好でなく、同0.83~0.84mで部分検出するにとどまった。

⑥ は給水管更新箇所である。⑤北端から構内道路北側を通りW3へとりつく。① g 北脇を通る a・① h 北側に相当する b・既設給水管敷設状況確認のため設定した c・共同溝を下越して③ b に至る d に細分した。

⑥ a は幅0.7~1.1mを、既設汚水樹をまたいで18.7mを地表下0.85m掘削した。層序は① g に準じ、近世遺物

包含層におさまる。

⑥ b は、① h 北側に相当し、① h に準じる。

⑥ c は1.2×0.9mを掘削した。地表下0.7mで近世包含層を検出した。同0.79mで給水管頂、同0.9mで汚水管頂を検出した。

⑥ d は、① d-③ b 間の0.9×1.9mを地表下0.85m掘削し、近世遺物包含層におさまる。給水管が共同溝を下越するため、共同溝の東1mは同1.1mまで掘削し、同0.94mで厚い酸化鉄の分布を検出した。

⑦ は浸透側溝敷設箇所、既設L型側溝からの更新である。⑤と重複する部分を除いた箇所について立会を実施した。

⑦ a は、C1とW2の間を通る構内道路の東西軸、C1とW3とをつなぐ共同溝から曲がり角までのおおむね0.9m×34mを、西端の集水樹から13m東の集水樹までは地表下0.8m、以東は同0.7m掘削した。14.5m東にもう一つの集水樹設置箇所があり、いずれも床掘からさらに0.1m掘削した。西端の集水樹は既設樹設置箇所と重なり現代埋土。残りの2箇所はいずれも近世遺物包含層におさまる。中央付近から近代土坑1を検出した。

⑦ b は⑦ a の反対側、構内道路北端をおおむね0.9×40m、地表下0.8m掘削した。掘削は近世遺物包含層におさまる。W2前で近代建物基礎工を検出した。当時の建物配置図との比較から、熊本薬学専門学校の銃剣道場入口部分に相当するとみられる。栗石を一部撤去することになったが、大半は現地に保存できた。

⑦ c は、⑦ a 西端から斜行する3.5mと、道路の東端をC1北西隅まで南下する12mを掘削した。斜行からの曲がり角と、南北軸の南端に集水樹が設定され、いずれも配管部分は地表下0.7m、集水樹設置箇所はさらに0.1m程度を掘削した。斜行部分と、① b の南2.6m地点までは同0.7mで近世遺物包含層を検出したが、以南は現代埋土におさまる。南端の集水樹設置箇所のみ同0.81m



写真77 ⑤ b 区近代建物基礎工検出状況 (東より)

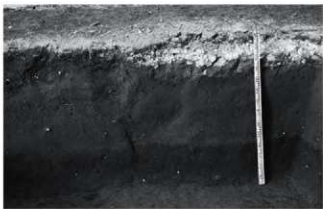


写真78 ④ a 区北壁土層断面 (南より)

で近世遺物包含層を検出した。⑤ b 既検出の近代建物基礎工が続くと想定していたが、既に撤去されていた。

遺物は、調査区を通して小片・細片が主で、法量等を把握できるものはごく僅かである。土師器がやや多く、須恵器は少量、布目瓦片が1点あり、ほかには近世陶磁器、近代陶磁器・ガラス製品・瓦・煉瓦、さらに現代陶磁器・陶管・モルタル煉瓦などが出土した。

2. (大江北) 基幹・環境整備 (給排水設備等) 1 期工事その2に伴う工事立会 (2206)

<調査期間>

2023年3月9日

<調査面積>

209.0㎡

<調査員>

土野雄貴

<調査概要・結果>

前出、給排水設備等工事完了後に実施される、構内道路の路面および路盤の更新工事である。2205調査の結果、遺跡に影響を与える恐れがないことを確認したので、慎重に作業を行なうこととした。



写真79 調査区近景 (西より)

3. (大江北) 薬学部動物舎南側屋外給水管漏水修繕工事に伴う工事立会 (2207)

<調査期間>

2022年10月10日

<調査面積>

8.4㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

大江地区動物実験場付近で漏水が確認されたとの連絡を受け、その修繕に伴う工事立会を実施した。工事期間中は大江キャンパス全域の断水措置が必要となったため、協議の結果、薬学部での講義や実験等に影響の少ない休日 (10月10日) に対応することとなった。

アスファルトと碎石の除去後、重機による掘削によって断水状態の既設管を露出させ、再度給水を試みた結果、2メートルほど西側の未掘削箇所にて漏水が確認された。掘削範囲を拡張して該当箇所の掘り下げ、破損管を露出させた後、破損部を含む50cmの部位が切断・除去された。バルブパイプによる接続により西側への給水を停止し、応急的な措置とした。

掘削範囲において、一部近代の埋土が確認されたが、掘削土の大半は既設管理設時の埋戻し土であったため、埋蔵文化財への影響はなかった。



写真80 漏水管修繕完了状況 (南より)

Ⅱ-6 新南部地区

1. (新南部) 作業用ビニールハウス設置工事に伴う工事立会 (2214)

<調査期間>

2023年2月27日

<調査面積>

46.5㎡

<調査員>

新里亮人

<調査概要・結果>

薬学部新南部農場における作業用ビニールハウスの設置に立会したものである。工事ではビニールハウス支柱の打設後、支柱列に沿った地表下0.6mまでの布掘りが行なわれるため、掘削範囲内における埋蔵文化財の包蔵状態についての確認を立会の目的とした。

掘削範囲の大半は耕作土内の掘削に留まり、埋蔵文化財への影響はなかったが、工区の北東半に一部地山の堆積が確認されたので、敷地の東側に向けて標高が高まる旧地形が想定された。

本立会における出土遺物はなかったものの、畑地内の踏査により、弥生土器片を数点採集した。



写真81 調査対象区近景 (北西より)



写真82 地山検出状況 (北より)

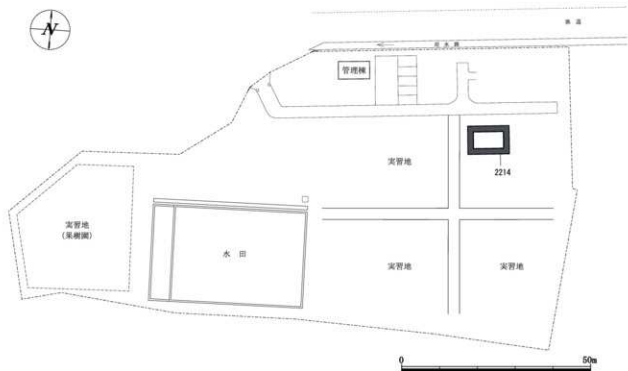


図8 新南部地区における調査地点配置図 (1/2000)

第三章 活用事業およびその他の関連業務

Ⅲ-1 構内遺跡の普及・啓発活動

新型コロナウイルスの影響により、本センターの展示室を利用した企画展示の開催は今年度も見送ったが、発掘調査現場の見学や遺跡の調査成果解説の機会を得、また、埋蔵文化財の活用という観点から本学が推進するキャンパスミュージアム構想の関連事業に積極的な協力を行なった。以下ではその概要について記す。

1. 2201地点調査説明および遺跡見学

黒髪地区における2201地点では、文学部および理学部の学生に向け調査状況の現地説明を行なった。6月1日は理学部の学生7名と教員1名、7月13日は文学部の学生7名と教員1名が来跡した。

2. 火薬学会2022年度秋季研究発表会・見学会

本学教員の依頼を受け、11月11日に記載された火薬学会秋季研究発表会見学会にて『熊本大学の文化財－黒髪地区を中心に』と題して、これまでの調査成果について解説を行なった。参加者は約20名であった。



図9 2201地点の遺跡見学の様子（北より）



図10 火薬学会での発表資料

Ⅲ-2 熊本大学キャンパスミュージアム構想関連事業への協力

1. 熊本大学キャンパスミュージアムシンポジウム「デジタル技術が切り開く地域文化財の未来」の開催

令和5年4月の博物館法改正では、博物館資料のデジタルアーカイブ化が博物館業務の一つとして明記される。このことを見据え、近年発展目覚ましいデジタル技術の文化財保護への応用について学習するため当シンポジウムを企画・立案した。

国内外そして熊本県内において文化財のデジタル記録を先駆的に推進している金田明大（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）、橋口剛士（嘉島町教育委員会社会教育課）、宮本利邦（阿蘇市教育委員会教育部教育課社会教育係主任）の3氏を講師に招いた講演とパネルディスカッションでは、本学学生・教職員のほか、県内外の自治体関係者等130名の参加者を得た。シンポジウムの様子については下記URLを参照されたい。

<https://museum.kumamoto-u.ac.jp/news/2022/11/01/>



図11 シンポジウムのチラシ(表面)

2. 熊本大学キャンパスミュージアム企画展示『見よ、クマダイ研究力!』への展示パネル提供

2022年11月3日から12月19日に五高記念館2階展示室で開催された企画展示にて、“赤レンガを掘る”『発掘された明治時代の建造物』と題するパネル展示を行なった。

これまでに本センターが実施してきた近代建造物に関する調査成果をまとめ、レンガの積み方や製造地に関する説明を行ない、特に工学部研究資料館の地下構造と構築過程については詳しく解説した。当企画展開催期間中の五高記念館来館者数は1776名に上った。

その他のパネル展示は、学内の教員・研究者による研究成果を一般向けに解説する内容で構成され、出展教員によるギャラリートーク形式の展示解説では本センター教員が司会を務めた。企画展示の様子は下記 URL を参照されたい。

<https://museum.kumamoto-u.ac.jp/news/2022/12/23/>

3. 熊本市所蔵文化財のX線 CT 撮影協力

熊本市と熊本大学キャンパスミュージアム推進室の共同調査によって、熊本市所蔵文化財の文化財3点について本学 X-Earth center での X 線 CT 撮影が実施された。

対象となった文化財は特別史跡熊本城跡のNHK跡地から出土した古墳時代の鉄刀（熊本城調査研究センター所蔵）、重要文化財台付舟形土器（塚原歴史民俗資料館所蔵）、江島栄次郎作活人形頭部（熊本博物館所蔵）で、撮影によってそれぞれの内部構造が明らかとなった。特に、古墳時代の鉄刀には、「甲子年□□□」の6文字の銘文が象嵌されていることが画像解析によって判明し、西暦604年に製作された可能性が高いと公表された。調査成果の概要については下記 URL を参照されたい。

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujuhou/kouhou/pressrelease/2022-file/release230127.pdf>

4. 熊本大学キャンパスミュージアム基本構想(案)の策定業務

熊本大学の第4期中期目標に明記されたキャンパスミュージアム構想を推進するため、同基本構想の策定業務に携わった。具体的には、学内各研究機関へのアンケートや聞き取り調査を実施し、情報の取りまとめと課題の抽出、同基本構想(案)の編集業務を行なった。

なお、基本構想(案)は簡易製本によるものであるため、一般配布はされていない。



図12 企画展会場の様子1



図13 企画展会場の様子2



図14 展示解説の様子

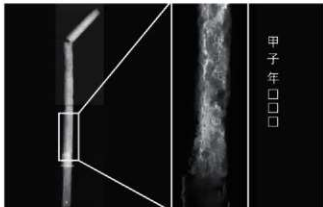


図15 X線 CT 撮影によって確認された銘文

Summary

In fiscal 2022, Kumamoto University Research Center for Buried Cultural Properties conducted archaeological surveys related to 15 development projects on the university campus, and the following results were obtained. Investigations concerned to the involving the installation of water supply and drainage pipes and the reconstruction of buildings in the Kurokami-North and South areas revealed archaeological remains and relics from the Jomon, Heian and modern periods. Especially, the remains of a road discovered on the west side of the Kurokami-North area were located on the presumed route of the ancient government road, and it became clear that a part of Saikai-do Road, which had been discovered in the Kurokami-South area in the past, remained in the area. Human remains were found in the underground cavern discovered during the construction of the Uruga area, and it was concluded that it was a newly discovered Ouketsubo (tunnel tomb) in the Kofun period. Ancient, early-modern, and modern remains and relics were found in the Honjo area and the Oe-North area, and the distribution of Yayoi pottery was confirmed in the Shinnabe-area. The results of these archaeological surveys provide important information for clarifying the relationship between the geologic history and human activities. The installation work of water supply and drainage pipe in Kurokami North area and Oe North area is a plan for several years, and in addition, the new construction work of the laboratory with the establishment of the new department is scheduled in fiscal 2023. We will continue to deal with the investigation of archaeological sites related to these development plans.

2022년도 구마모토대학 매장문화재 조사센터에서는 15건의 개발공사에 기인한 고고학적 조사를 실시하여 다음과 같은 성과를 얻었다.

구로카미 북지구와 남지구의 급배수관 설치공사와 건물 개축공사에 관련된 조사에서 죠몬시대 및 헤이안시대, 근대의 유구와 유물들이 발견되었다. 특히 구로카미 북지구 서쪽에서 발견된 도로유구는 고대 관도(官道)의 추정 루트상에 위치하고 있어 이전에 구로카미 남지구에서 발견된 사이카이도(西街道)의 일부가 해당 지구에도 잠존하고 있다는 것이 분명해 졌다.

우루게지구 공사 때 발견된 지하 공간에서는 인골이 발견되었는데 새로 발견된 고분시대 형질묘로 결론지어졌다. 혼조지구와 오오에지구에서는 고대, 근세, 근대의 유구와 유물들이 발견되었고 또 신나메지구에서는 아요이토기의 분포가 확인되었다.

이상과 같은 고고학적조사 성과는 지사(地史)와 인간활동사의 관계를 밝히는데 있어 중요한 정보를 제공해 준다. 구로카미 북지구와 오오에지구의 기간환경 정비에 관한 공사는 어리해에 걸쳐 진행될 계획이며 더욱이 2023년도에는 신학과 창설에 따른 연구동의 신축공사가 예정되어 있다.

우리는 이러한 개발 계획에 관련된 매장문화재의 보호 업무에 지속적으로 대응해 나갈 것이다.

付 篇

付篇 1 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (R2.2.28～)

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則（平成16年4月1日制定）第9条第2項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 センターは、熊本大学（以下「本学」という。）に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理・研究、保管及び保存に関すること。
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
- (4) 埋蔵文化財に係る考古学的知見等に基づく教育に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

- 第5条 センター長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第7条に規定する委員会の推薦を受けて、学長が行う。
- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
 - 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
 - 4 センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第6条 専任教員の選考は、熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の意見を聴いて、学長が行う。

- 2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会の設置)

第7条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの専任教員
 - (3) 大学院教育学研究科から選出された教授又は准教授 1人
 - (4) 大学院人文社会科学研究部から選出された教授又は准教授 2人
 - (5) 大学院先端科学研究部から選出された教授又は准教授 2人
 - (6) 大学院生命科学研究部の医学系又は病院から選出された教授又は准教授 1人
 - (7) 大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授 各1人
 - (8) 発生医学研究所、生命資源研究・支援センター又はヒトレトロウイルス学共同研究センターから選出された教授又は准教授 1人
 - (9) 施設部施設管理課長
 - (10) その他センター長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第3号から第8号まで及び第10号の委員は、学長が委嘱する。
 - 3 第1項第3号から第8号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
 - 4 第1項第3号から第8号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
 - 5 第1項第10号の委員の任期は、学長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(委員会の審議事項)

第9条 委員会は、センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条に定める事項を除く。）を審議する。

- (1) センターの業務に関すること。
- (2) センター長候補者の推薦に関すること。
- (3) 施設及び予算に関すること。
- (4) その他センターの管理運営に関すること。

(委員長)

第10条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を聞き、議決をすることができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。（意見の聴取）

第12条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第13条 センター及び委員会の事務は、施設部施設企画課において処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年10月1日から施行する。

2 国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年4月1日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

3 この規則施行後、最初に任命されるセンター長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則により選考されたものとみなす。

4 この規則施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第3号及び第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則（平成24年12月27日規則第142号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月13日規則第94号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年2月5日規則第9号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月1日規則第30号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年9月23日規則第404号）

この規則は、平成28年9月23日から施行する。

附 則（平成29年3月31日規則第153号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月22日規則第177号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月28日規則第264号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年2月28日規則第14号）

この規則は、令和2年2月28日から施行する。

付篇2 2022年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1 埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞（併・大学院人文社会科学研究部教授）	新井 英永（2021.4.1～）
＜専任教員＞	大坪 志子 新里 亮人 山野 ケン陽次郎
＜技術補佐員＞（2022年10月～2023年3月）	土野 雄貴
＜事務補佐員＞（2022年4月～2023年3月）	植田 裕子
＜室内作業員＞（2022年4月～2022年6月）	濱崎 清子
（2022年4月～2023年3月）	井上 裕美 江口 路 鬼塚 美枝 久保田 和美 下高 理恵 園田 智子 増井 弘子 内村 雄一 首藤 優子 末吉 美紀
（2022年9月～2023年3月）	
（2022年10月～2023年3月）	

2 埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	新井 英永（埋蔵文化財調査センター長）	
委員	中尾健一郎（大学院人文社会科学研究部教授）	任期（2021.4.1～2023.3.31）
	小畑 弘己（大学院人文社会科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	渡部 薫（大学院人文社会科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	望月 伸竜（大学院先端科学研究部准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	村上 聖（大学院先端科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	福田 孝一（大学院生命科学研究部医学系教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	米田 哲也（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	杉村 康司（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	日野信次朗（発生医学研究部准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	嶋津 高雅（施設部施設管理課長）	（2021.5.1～）
	大坪 志子（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	新里 亮人（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

3 令和4年度埋蔵文化財調査センター運営委員会 審議事項

第1回（2022年5月23日）

報告

- 1) 令和3年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について
- 2) 令和3年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について
- 3) 事務補佐員の雇用期限撤廃について
- 4) その他

議題

- 1) 令和4年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について
- 2) 令和4年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について
- 3) その他

第2回（2023年1月23日 メール会議）

審議事項

- 1) 埋蔵文化財調査センター長候補者の推薦について

付篇3 熊本大学埋蔵文化財調査センター2022年度調査・研究活動記録

大坪志子

<論文等>

- ・「ヒスイの玉類」『季刊考古学 別冊40 縄文時代の終焉』雄山閣
- ・大坪志子(編)『熊本大学構内遺跡発掘調査報告17』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第17集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報28』熊本大学埋蔵文化財調査センター(共著:大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎・土野雄貴)

<科学研究費>

- ・科学研究費基盤研究(B)『縄文時代のヒスイ・コハクを用いた装身具の総合的研究』(研究代表者:栗島義明)研究協力者

<その他>

- ・「九州縄文時代後晩期の玉文化と研究法」『手工业考古・山と青島国際论坛——以史前至商周玉器和石器手工业考古为中心』山东大学历史文化学院、文化遺産研究院(2022年7月9・10日 山东大学 オンライン)
- ・福岡大学集中講義(2022年8月1~4日)
- ・「九州縄文時代後晩期における玉製作技術の検討」兵庫県考古学談話会(2022年12月18日 オンライン)
- ・「クロム白雲母を用いた装身具製作<熊本県三万田東原遺跡>」シンポジウム「ヒスイ・コハク」科学研究費補助金基盤B『縄文時代のヒスイ・コハクを用いた装身具の総合的研究』研究代表者:栗島義明 共催:明治大学黒曜石研究センター・日本玉文化学会(2022年12月10日 オンライン)
- ・熊本市立石遺跡出土玉類の指導(2022年11月20日 熊本大学埋蔵文化財調査センター)
- ・嘉麻市文化財公式(Youtube)「おさまる探検隊!「アミダ遺跡」の謎を解き明かせ!」動画助言(2022年6・7月 オンライン・電話)
- ・玉名市歴史博物館企画展「第10回 たまな発掘速報展」展示資料ほか資料に関する助言・指導(2022年6月2日 熊本大学埋蔵文化財調査センター)
- ・長崎県原の辻遺跡調査指導委員会(2022年12月8日 長崎県埋蔵文化財センター)
- ・熊本県環境影響評価審査会(2022年10月5日 ホテル熊本テルサ、2023年3月8日 熊本県上益城地域振興局)
- ・八代市文化財保護委員会(第1回 2022年11月1日 八代市役所)
- ・栗島義明(明治大学)・大塚道則(公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団)三万田東原遺跡資料調査対応(2023.3.7 熊本大学埋蔵文化財調査センター)

新里亮人

<論文等>

- ・「Production at the Kamuiyaki Kiln Site Cluster and the Connection of the Ryūkyū Archipelago to Surrounding Societies During the Eleventh Through Fourteenth Centuries」『Kilns in East and North Asia: The adoption of ceramic industries』BAR Publishing.
- ・「貝塚時代後期末の奄美諸島—グスク時代3点セット成立前夜—」『南島考古』41 沖繩考古学会
- ・「第12章 琉球列島」『新版 中世の土器・陶磁器』真陽社(瀬戸哲也との共同執筆)
- ・新里亮人(編)『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報28』熊本大学埋蔵文化財調査センター

<科学研究費>

- ・「琉球列島農耕伝播経路解明に向けた考古学的研究」令和2~6年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(研究代表者)

<その他>

- ・小浜貝塚発掘調査参加および調査指導(2022年5月3~8日 鹿児島県西之表市)

- ・「(4) トランスナショナルな視点からみた琉球列島の海上交易」『一般社団法人 日本考古学協会第88回総会 研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会(2022年5月29日 早稲田大学)(木村淳との共同発表)
- ・徳之島町誌編纂 先史・古代・中世部会(2022年5月28日 オンライン)
- ・第4回和泊町の歩み編さん委員会(2022年6月17日 オンライン)
- ・徳之島町誌編纂 先史・古代・中世部会編集会議(2022年6月14日 オンライン)
- ・小浜貝塚発掘調査参加および調査指導(2022年8月12-16日 鹿児島県西之表市)
- ・「徳之島町史 通史編」編纂に係る調査(実測等)・会議(2022年8月24-28日 鹿児島県徳之島町)
- ・徳之島町誌編纂 先史・古代・中世部会編集会議(2022年10月6日 オンライン)
- ・和泊町の歩み編さん事業に係る沖水良部島内実地調査(2022年11月4-8日 鹿児島県和泊町)
- ・小浜貝塚発掘調査の予備調査および打ち合わせ(2022年12月17-18日 鹿児島県西之表市)
- ・徳之島町誌編纂 先史・古代・中世部会編集会議(2023年1月14-15日 鹿児島県鹿児島市)
- ・才上遺跡調査指導(2023年1月21-23日 鹿児島県伊仙町)
- ・新里亮人「ここまでわかった!名護・沖縄のグスク時代」『名護市教育の日』関連イベント文化講演会(2023年1月28日 名護市立中央図書館 AVホール)
- ・和泊町の歩み編さん事業に係る沖水良部島内実地調査(2023年2月20-23日 鹿児島県和泊町)
- ・ウンブキ水の中鍾乳洞遺跡の取り扱い協議会事前打ち合わせ会議(2023年3月13日 オンライン)

山野ケン陽次郎

<論文等>

- ・「熊本大学埋蔵文化財調査センター年報28」熊本大学埋蔵文化財調査センター(共著:大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎編・土野雄貴)

<科学研究費>

- ・「完新世におけるマイクロネシアの人類拡散の考古学的再検証ー貝製品を中心にー」独立行政法人日本学術振興会:令和5年度科学研究費助成事業 若手研究(C) 研究期間:2022年4月-2025年3月(研究代表者)

<その他>

- ・小浜貝塚発掘調査参加および調査指導(2022年4月28日-5月4日 鹿児島県西之表市)
- ・「マリアナ諸島の先史文化と貝製品の変遷」『第1回マイクロネシア・フィリピン科学研究会』(2022年6月25日 熊本大学文法棟)
- ・「熊本大学の文化財ー黒髪地区を中心にー」『火薬学会2022年度秋季研究発表会・見学会』(2022年11月11日 熊本大学教養棟黒髪1)

報告書抄録

ふりがな	くもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼう 29							
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 29							
副書名								
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報							
シリーズ号	29							
編著者名	新井英永・大坪志子・土野雄貴・新里亮人・山野ケン陽次郎							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL：096-342-3832 FAX：096-342-3832							
発行年月日	2024年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒髪町遺跡群 (2201地点)	熊本県 熊本市 黒髪	431010	597	32° 48' 47"	130° 43' 46"	20220418 ～ 20230209	1498.3㎡	基幹・環境 整備に伴う
宇留毛小墳橋 際横穴墓 (2203地点)	熊本県 熊本市 宇留毛	431010	606	32° 49' 06"	130° 44' 34"	20220801 ～ 20221012	3.5㎡	災害復旧工 事に伴う
本庄遺跡 (2215地点)	熊本県 熊本市 本庄	431010	660	32° 47' 44"	130° 42' 42"	20230308	1740.4㎡	病院敷地内 の開発事業 に伴う
大江遺跡群 (2205地点)	熊本県 熊本市 大江	431010	648	32° 47' 39"	130° 43' 17"	20221004 ～ 20230309	237.7㎡	基幹・環境 整備に伴う
※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です								
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
黒髪町遺跡群 (2201地点)	集落址	縄文・古代・ 近世・近代	竪穴建物、ピット・土 坑・溝・道路跡（波板 状痕跡）	縄文土器・石器・土師 器・須恵器・陶磁器・ ガラス瓶・瓦・煉瓦・ 鉄製品・土製品・貝類				
宇留毛小墳橋 際横穴墓 (2203地点)	埋葬址	古墳	横穴墓	人骨				
本庄遺跡 (2215地点)	集落址	近世・近代	道路跡					
大江遺跡群 (2205地点)	集落址	古代・近世・近代	近世溝・近代建物基礎工	土師器・須恵器・布目瓦・ 近世陶磁器・近代陶磁器・ ガラス・瓦・煉瓦				
要約	2022年度は、大学構内の開発工事15件の立会・発掘調査を実施した。黒髪北地区と南地区における給排水管の設置工事や建物の改築工事に関わる調査では、縄文時代、平安時代、近代の遺構や遺物が発見された。特に、黒髪北地区の西側においては古代西海道の一部と推定される道路状遺構が検出された。宇留毛地区ではアンカー孔の穿孔時に横穴墓が新規で発見された。本庄地区と大江北地区においては古代、近世、近代の遺構や遺物、新南部地区では弥生土器の分布が確認された。							

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報29

—2022年度—

令和6年3月27日 印刷

令和6年3月29日 発行

編集兼発行者 熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本市中央区黒髪2-39-1

電話 096-342-3832

印刷所

シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2024